

下仁田町自然史館の収蔵庫に眠っている様々な標本を月替わりに1点ずつ、当館玄関（無料スペース）に展示しています！ぜひ、ご来館ください。



2025年2月

県の石とも仲良し **輝安鉱** (きあんこう)

輝安鉱は、2016年に県の鉱物に認定された^{けいかんせき}鶏冠石と生成条件が近く、希少な金属のアンチモンを含みます。アンチモンは他の金属と合金にするなどして、さまざまに利用されています。

輝安鉱ってどんな鉱物？

^{こうがいしよく しんじょう いたじょう ちゅうじょう}鋼灰色で針状・板状・柱状の鉱物で、世界的に有名な愛媛県市之川^{しのがわ}鉱山では刀剣のような大きく見事な結晶が産出します。下仁田町や南牧村でも産出し、輝安鉱の分解物として黄色の^{おうあんか}黄安華を伴います。



スケールの間隔は1mm
採掘のあと捨てられた石(ズリ)からみつかったもの。拡大すると特徴が見えます。



どこで採れた？

下仁田町、中丸鉱山・西ノ牧鉱山

私有地です。許可なく入山・採取は禁止されています。

成分は？

Sb₂S₃ アンチモンと硫黄

なめてはいけません！！（毒性あり）



左:坑口跡が点々とみられる
(危険ですので中に入らないでください)

右:捨てられたズリの堆積場所

【 アンチモンの利用 】

- 【かつて】印刷用の活字合金(融点が高い、溶融してから冷えて固まると膨張という特殊な性質から)
- 【現在】合金として鉛蓄電池など、半導体産業。

◎貴重な石を後世に残すためにも、ジオパークエリア内での岩石・鉱物の保全にご協力ください

作成: 下仁田自然学校 丸橋 剛